

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 近畿財務局長

【提出日】 平成25年11月13日

【四半期会計期間】 第37期第2四半期(自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日)

【会社名】 ヒラキ株式会社

【英訳名】 HIRAKI CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役 向 畑 達 也

【本店の所在の場所】 神戸市須磨区中島町三丁目2番6号  
(同所は登記上の本店所在地で実際の業務は「最寄りの連絡場所」で行っております。)

【電話番号】 該当事項ありません。

【事務連絡者氏名】 該当事項ありません。

【最寄りの連絡場所】 神戸市西区岩岡町野中字福吉556

【電話番号】 (078)967-4601

【事務連絡者氏名】 取締役 現業支援本部長 今 本 清 治

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第36期 第2四半期連結 累計期間	第37期 第2四半期連結 累計期間	第36期
会計期間	自 平成24年 4月1日 至 平成24年 9月30日	自 平成25年 4月1日 至 平成25年 9月30日	自 平成24年 4月1日 至 平成25年 3月31日
売上高 (千円)	10,548,253	9,625,734	20,642,858
経常利益 (千円)	142,182	264,468	533,211
四半期(当期)純利益 (千円)	90,360	160,904	328,004
四半期包括利益又は 包括利益 (千円)	17,634	21,343	667,622
純資産額 (千円)	3,978,062	4,509,069	4,579,240
総資産額 (千円)	16,528,180	17,720,419	16,095,009
1株当たり四半期(当 期)純利益金額 (円)	18.63	32.97	67.41
潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	18.45		67.25
自己資本比率 (%)	24.1	25.4	28.5
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	156,850	274,678	803,988
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	218,568	2,642,250	20,756
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	1,071,386	1,876,876	161,062
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)	2,212,804	1,881,775	2,339,705

回次	第36期 第2四半期連結 会計期間	第37期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自 平成24年 7月1日 至 平成24年 9月30日	自 平成25年 7月1日 至 平成25年 9月30日
1株当たり四半期純損 失金額( ) (円)	17.13	6.89

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 第37期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社および当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生または前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものです。

#### (1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間（平成25年4月1日～平成25年9月30日）におけるわが国経済は、輸出の持ち直し、各種政策効果が、企業収益、雇用情勢の改善につながり、緩やかに回復する動きがみられました。しかしながら、靴業界におきましては、依然、消費者の節約志向が続いており厳しい状況で推移いたしました。

このような環境のもと、当社グループは、強みである「靴」を中心とした「商品力の強化」、そして「商品力」を売上へとつなげる「現場力の強化」に継続して取り組み、事業展開を進めてまいりました。

通信販売事業におきましては、商品開発・販売促進・商品管理の各業務を一体化させた新組織体制のもと、自社開発商品に対する社内での評価体制の強化、ディスカウント店舗との情報共有による売れ筋情報の収集機能の強化、顧客購入分析の徹底、さらに生産体制（協力工場管理）の強化を通じて「商品力の強化」に取り組み「驚き・楽しさ・満足感」を実感して頂ける新商品を順次投入いたしました。具体的には、秋の彩りに合わせた5色のスエード調で展開する『499円 レディースカジュアルシューズ』が5万足を超える販売数となりました。また、7色のカラーバリエーションとジュニアからレディースまでサイズを展開し親子で楽しめる『1,029円 ショートボアブーツ』、人気のバイカラーを採用した『1,029円 レディースカジュアルシューズ』も秋のカタログからご好評頂いております。また、一方で、強化された商品力を広く認知して頂くために、無料設置カタログの増設、WEB広告の強化などを通じて新規顧客の開拓に取り組みました。

ディスカウント事業におきましては、岩岡店では「日本最大級の靴売場」、各支店では「圧倒的な地域一番の靴売場」を目指し、靴を中心としたバラエティ・ディスカウント・ストアとしての差別化を図るため、圧倒的な安さを実現した自社開発商品を、靴をはじめ、衣料、日用雑貨においても展開してまいりました。また、『特価大商談会』の定期的な開催、および新規仕入先の開拓についても継続的に取り組み、収益性の改善に努めてまいりました。

卸販売事業におきましては、靴販売店向けカタログ『大卸』の配布先を第2四半期連結会計期間においてさらに増加させ、収益性の確保を図りながら量的拡大に向けての取り組みを強化いたしました。

このような取り組みにもかかわらず、第1四半期連結会計期間における通信販売事業の低迷、および不採算店舗であった氷上山南店を昨年10月末に閉店したことによる売上高の減少が影響し、当第2四半期連結累計期間における連結売上高は96億2千5百万円（前年同四半期比8.7%減）となりました。

利益面につきましては、通信販売事業を中心に更なるローコストオペレーションの実施、ディスカウント事業における「仕入先政策の強化」による粗利率の改善、不採算店舗の閉店による収益力の強化に取り組み、第2四半期連結会計期間において営業利益は改善いたしました。第1四半期連結会計期間の低迷を補うまでには至らず、当第2四半期連結累計期間における営業利益は2億3千6百万円（前年同四半期比16.8%減）となりました。なお、経常利益については、円安傾向による為替差益の増加などにより2億6千4百万円（前年同四半期比86.0%増）、四半期純利益は1億6千万円（前年同四半期比78.1%増）となり、増益となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

#### 通信販売事業

通信販売事業におきましては、商品開発体制の強化により、新商品をタイミングよく投入したことで、秋冬商品の受注が順調に推移し、第2四半期連結会計期間の売上高は上向きに転じましたが、第1四半期連結会計期間の低迷を補うまでには至らず、第2四半期連結累計期間における売上高は47億5千4百万円（前年同四半期比4.3%減）となりました。利益面では、物流業務の効率化に引き続き取り組み、第2四半期連結会計期間において収益は改善いたしました。第1四半期連結会計期間の不振、新規顧客獲得強化の施策などから、第2四半期連結累計期間におけるセグメント利益（営業利益）は4億2千万円（前年同四半期比18.5%減）となりました。

#### ディスカウント事業

ディスカウント事業におきましては、氷上山南店の閉店の影響などにより、売上高は46億6千1百万円（前年同四半期比12.3%減。なお、閉店を除く既存店では4.4%減）となりました。利益面では、仕入先政策の強化や自社開発商品の拡販などによる粗利率の改善、および不採算店舗の閉店などにより、セグメント利益（営業利益）は2千3百万円（前年同四半期は1千7百万円の損失）となり、営業損失から脱して黒字化することができました。

#### 卸販売事業

卸販売事業におきましては、靴販売店向けカタログ『大卸』の売上高が増加する一方、第2四半期連結会計期間においても大口OEM販売先について取引が伸び悩む傾向が継続し、売上高は2億9百万円（前年同四半期比21.6%減）、セグメント利益（営業利益）は9百万円（前年同四半期比49.2%減）となりました。

## (2) 財政状態の分析

### 資産

流動資産は、前連結会計年度末に比べ、17億4千2百万円増加し、103億7千9百万円となりました。これは、現金及び預金が21億5千9百万円増加し、商品が1億4千6百万円減少したこと等によるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ、1億1千6百万円減少し、73億4千万円となりました。これは、建物及び構築物が1億8百万円減少したこと等によるものであります。

この結果、総資産は、前連結会計年度末に比べて、16億2千5百万円増加し、177億2千万円となりました。

### 負債

流動負債は、前連結会計年度末に比べ、9千9百万円増加し、44億1千7百万円となりました。これは、買掛金が1億1千万円減少し、1年内返済予定の長期借入金が3億3千2百万円増加したこと等によるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ、15億9千6百万円増加し、87億9千4百万円となりました。これは、長期借入金が16億1千1百万円増加したこと等によるものであります。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べ、16億9千5百万円増加し、132億1千1百万円となりました。

### 純資産

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ、7千万円減少し、45億9百万円となりました。これは、利益剰余金が1億1千2百万円増加したこと等によるものであります。自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ3.1ポイント減少し25.4%となりました。

## (3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という）の残高は、「営業活動によるキャッシュ・フロー」および「財務活動によるキャッシュ・フロー」で得られた資金を、「投資活動によるキャッシュ・フロー」で使用した結果、前連結会計年度末に比べ4億5千7百万円減少し、18億8千1百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各活動によるキャッシュ・フローの状況は、次のとおりであります。

### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、2億7千4百万円（前年同四半期は1億5千6百万円の使用）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益2億6千4百万円の計上、たな卸資産の減少1億9千万円、法人税等の支払額1億6千6百万円によるものであります。

### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、26億4千2百万円（前年同四半期は2億1千8百万円の使用）となりました。これは主に、定期預金の預入による支出26億2千万円によるものであります。

### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は、18億7千6百万円（前年同四半期は10億7千1百万円の獲得）となりました。これは主に、長期借入れによる収入32億円、長期借入金の返済による支出12億5千5百万円によるものであります。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	17,920,000
計	17,920,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成25年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成25年11月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	5,155,600	5,155,600	東京証券取引所 (市場第二部)	単元株式数は 100株であります。
計	5,155,600	5,155,600		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成25年9月30日		5,155		450,452		170,358

(6) 【大株主の状況】

平成25年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合(%)
株式会社マヤハ	神戸市須磨区高倉台7丁目1番5号	752	14.58
ヒラキ従業員持株会	神戸市西区岩岡町野中字福吉556	327	6.34
神戸信用金庫	神戸市中央区浪花町61番地	251	4.87
株式会社みなと銀行	神戸市中央区三宮町2丁目1番1号	211	4.09
平木 和代	神戸市須磨区	195	3.79
株式会社山陰合同銀行	松江市魚町10	184	3.57
野崎 誠	神戸市北区	154	2.99
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区丸の内1丁目3番3号	120	2.32
向畑 達也	神戸市垂水区	106	2.07
株式会社山口銀行	山口県下関市竹崎町4丁目2番36号	96	1.86
計		2,398	46.52

(注) 上記のほか当社所有の自己株式274千株があります。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成25年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 274,600		
完全議決権株式(その他)	普通株式 4,879,700	48,797	
単元未満株式	普通株式 1,300		
発行済株式総数	5,155,600		
総株主の議決権		48,797	

【自己株式等】

平成25年9月30日現在

所有者の氏名 または名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) ヒラキ株式会社	神戸市須磨区中島町 三丁目2番6号	274,600		274,600	5.32
計		274,600		274,600	5.32

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成25年7月1日から平成25年9月30日まで)および第2四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。



1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	2,342,805	4,501,875
受取手形及び売掛金	1,020,226	1,041,283
商品	4,512,870	4,366,318
未着商品	119,289	75,393
貯蔵品	17,029	16,769
繰延税金資産	-	41,024
その他	646,025	360,644
貸倒引当金	20,598	23,466
<b>流動資産合計</b>	<b>8,637,649</b>	<b>10,379,842</b>
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物(純額)	3,736,140	3,627,646
土地	3,321,205	3,321,205
その他(純額)	220,625	203,431
<b>有形固定資産合計</b>	<b>7,277,970</b>	<b>7,152,284</b>
無形固定資産	38,273	43,099
投資その他の資産	<sup>1</sup> 141,116	<sup>1</sup> 145,193
<b>固定資産合計</b>	<b>7,457,360</b>	<b>7,340,577</b>
<b>資産合計</b>	<b>16,095,009</b>	<b>17,720,419</b>
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
買掛金	928,772	818,528
1年内返済予定の長期借入金	2,179,671	2,512,262
未払法人税等	176,527	100,145
繰延税金負債	57,463	-
賞与引当金	158,818	157,173
役員賞与引当金	-	3,812
ポイント引当金	34,448	34,801
その他	782,296	790,489
<b>流動負債合計</b>	<b>4,317,999</b>	<b>4,417,213</b>
<b>固定負債</b>		
長期借入金	6,889,255	8,501,124
退職給付引当金	90,902	99,155
環境対策引当金	13,568	13,568
資産除去債務	29,835	30,105
その他	174,208	150,182
<b>固定負債合計</b>	<b>7,197,769</b>	<b>8,794,137</b>
<b>負債合計</b>	<b>11,515,768</b>	<b>13,211,350</b>

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	450,452	450,452
資本剰余金	1,148,990	1,148,990
利益剰余金	2,758,136	2,870,230
自己株式	143,552	143,570
株主資本合計	4,214,026	4,326,102
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,680	4,399
繰延ヘッジ損益	355,619	165,065
為替換算調整勘定	4,913	13,500
その他の包括利益累計額合計	365,214	182,966
純資産合計	4,579,240	4,509,069
負債純資産合計	16,095,009	17,720,419

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】  
【四半期連結損益計算書】  
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
売上高	10,548,253	9,625,734
売上原価	6,491,764	5,701,456
売上総利益	4,056,488	3,924,277
販売費及び一般管理費		
広告宣伝費及び販売促進費	1,139,599	1,128,286
貸倒引当金繰入額	6,230	11,031
ポイント引当金繰入額	24,104	23,399
給料手当及び賞与	1,052,548	1,006,023
賞与引当金繰入額	162,934	157,173
その他	1,386,433	1,361,416
販売費及び一般管理費合計	3,771,849	3,687,331
営業利益	284,638	236,946
営業外収益		
受取利息	2,798	1,482
受取配当金	899	972
為替差益	-	47,564
その他	18,800	45,197
営業外収益合計	22,498	95,217
営業外費用		
支払利息	68,208	63,118
為替差損	96,246	-
その他	499	4,576
営業外費用合計	164,955	67,695
経常利益	142,182	264,468
特別損失		
店舗閉鎖損失引当金繰入額	4,640	-
特別損失合計	4,640	-
税金等調整前四半期純利益	137,542	264,468
法人税、住民税及び事業税	34,144	91,290
法人税等調整額	13,037	12,274
法人税等合計	47,181	103,564
少数株主損益調整前四半期純利益	90,360	160,904
四半期純利益	90,360	160,904

【四半期連結包括利益計算書】  
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	90,360	160,904
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,635	280
繰延ヘッジ損益	71,581	190,554
為替換算調整勘定	490	8,587
その他の包括利益合計	72,726	182,247
四半期包括利益	17,634	21,343
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	17,634	21,343
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	137,542	264,468
減価償却費	175,325	158,778
貸倒引当金の増減額(は減少)	3,274	2,868
賞与引当金の増減額(は減少)	3,285	1,644
役員賞与引当金の増減額(は減少)	3,562	3,812
ポイント引当金の増減額(は減少)	536	352
店舗閉鎖損失引当金の増減額(は減少)	4,640	-
退職給付引当金の増減額(は減少)	7,376	8,253
環境対策引当金の増減額(は減少)	2,210	-
受取利息及び受取配当金	3,698	2,455
支払利息	68,208	63,118
為替差損益(は益)	52,588	26,154
売上債権の増減額(は増加)	124,976	19,947
たな卸資産の増減額(は増加)	108,881	190,707
仕入債務の増減額(は減少)	174,943	114,042
その他	135,977	24,625
小計	149,057	503,489
利息及び配当金の受取額	2,909	2,338
利息の支払額	68,194	64,495
法人税等の支払額	240,622	166,654
営業活動によるキャッシュ・フロー	156,850	274,678
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	200,600	2,620,100
定期預金の払戻による収入	-	3,100
有形固定資産の取得による支出	16,178	20,724
無形固定資産の取得による支出	-	4,176
投資有価証券の取得による支出	1,563	1,624
その他	226	1,273
投資活動によるキャッシュ・フロー	218,568	2,642,250
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(は減少)	600,000	-
長期借入れによる収入	2,800,000	3,200,000
長期借入金の返済による支出	1,078,465	1,255,540
自己株式の取得による支出	6,805	18
ストックオプションの行使による収入	25,850	-
配当金の支払額	47,965	48,880
その他	21,226	18,684
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,071,386	1,876,876
現金及び現金同等物に係る換算差額	48,441	32,766
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	647,526	457,930
現金及び現金同等物の期首残高	1,565,278	2,339,705
現金及び現金同等物の四半期末残高	<sup>1</sup> 2,212,804	<sup>1</sup> 1,881,775

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1 資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
投資その他の資産	14,738千円	14,738千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
現金及び預金	2,315,304千円	4,501,875千円
有価証券	100,000千円	-
預入期間が3ヶ月を超える 定期預金等	202,500千円	2,620,100千円
現金及び現金同等物	2,212,804千円	1,881,775千円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月28日 定時株主総会	普通株式	48,001	10.00	平成24年3月31日	平成24年6月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年11月2日 取締役会	普通株式	48,810	10.00	平成24年9月30日	平成24年12月4日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	48,810	10.00	平成25年3月31日	平成25年6月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年11月8日 取締役会	普通株式	48,809	10.00	平成25年9月30日	平成25年12月3日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高および利益または損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結損 益計算書計上 額(注)2
	通信販売事業	ディスカウント 事業	卸販売事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	4,967,295	5,313,920	267,037	10,548,253		10,548,253
セグメント間の 内部売上高又は 振替高						
計	4,967,295	5,313,920	267,037	10,548,253		10,548,253
セグメント利益又は損失 ( )	515,802	17,154	18,813	517,460	232,821	284,638

(注) 1 セグメント利益又は損失( )の調整額 232,821千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に現業支援本部等管理部門に係る一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

. 当第2四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高および利益または損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結損 益計算書計上 額(注)2
	通信販売事業	ディスカウント 事業	卸販売事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	4,754,932	4,661,483	209,318	9,625,734		9,625,734
セグメント間の 内部売上高又は 振替高						
計	4,754,932	4,661,483	209,318	9,625,734		9,625,734
セグメント利益	420,469	23,459	9,554	453,483	216,537	236,946

(注) 1 セグメント利益の調整額 216,537千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に現業支援本部等管理部門に係る一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額および算定上の基礎ならびに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額および算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	18円63銭	32円97銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	90,360	160,904
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	90,360	160,904
普通株式の期中平均株式数(千株)	4,850	4,880
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	18円45銭	
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(千円)		
普通株式増加数(千株)	47	
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	平成17年6月23日定時株主総会決議によるストック・オプション 上記の新株予約権は、平成24年6月30日をもって権利行使期間満了により失効しております。	

(注) 当第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

第37期(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)中間配当については、平成25年11月8日開催の取締役会において、平成25年9月30日の株主名簿に記載または記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額	48,809千円
1株当たりの金額	10円00銭
支払請求権の効力発生日および支払開始日	平成25年12月3日



## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年11月7日

ヒラキ株式会社  
取締役会御  
中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員

公認会計士 和田朝喜

指定有限責任社員  
業務執行社員

公認会計士 矢倉幸裕

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているヒラキ株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成25年7月1日から平成25年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、ヒラキ株式会社及び連結子会社の平成25年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。